

地域研修報告書

所属：東京大学医学部附属病院 研修医

研修先：医療法人臼井会 田野病院

馬路村立馬路診療所

地域医療研修として1ヶ月間高知県にて研修させていただきましたので、その旨についてご報告させていただきます。

高知県は東西にのび、北に四国山脈、南に海を有する県です。人口密度は約100人/km²と全国44位であり、広大な地域に住民が分散している地域と言えます。

また高齢化率は秋田県に次いで全国2位の32.8%です。農業や林業で栄えていた地域性もあり、山の斜面に住む住民も多いですが、高齢化によって通院が困難になる人も増えています。現在全国の高齢化率は平成28年の時点で27.3%ですが、今後もさらに高齢化が進んでいくと予想され、その意味では高知県は我が国の未来の人口モデルケースと言えます。

私が研修した田野病院は高知県東部に位置し、急性期と回復期合わせて84床の病床を持つ病院です。常勤医師は7名と、慢性的に医師が不足しているため高知大などから医師を派遣してもらっていました。また他の施策として、ドクターズクラークの導入などにより医療スタッフのマンパワーを拡充することで医師不足に柔軟に対応していました。常勤医師も地域で診療を担う医師として幅広い分野の診療を行われており、その点も都市部の医師と大きく異なる点でした。

研修では、外来や健診の見学や手術・内視鏡への参加、学会発表など多くのことを経験させていただきました、大変実りある研修となりました。私はこれまで回復期の患者を診る機会がありませんでしたが、術後の患者がどのような転機を辿り自宅退院に向かっていくのかなどについても、実際の現場をみることができました。同時に、地域の病院は高齢者が多いために廃用が進み易く、回復期の病床は常に不足している状態であるということがわかりました。田野病院では介護部門にも力を注いでおり、通所リハビリテーション施設やデイサービス、デイケアなどの介護リハも見学しました。院外での研修も多く、訪問診療や訪問看護、訪問介護と普段関わることの少ない他職種のそれぞれの職務内容を体験することで、地域の患者に包括的に関わることができました。

これらの経験を通して感じたことは、地域医療にとって医師不足は深刻ですが、高齢社会の医療は単に医師を補充するだけでカバーしきれない問題を抱えているということです。高知県のように地域の人口が減ってきた状態では、例えば処置や手術のできる設備を備えた病院を数多く建てても1つの病院に患者が集まらず、経営困難となってしまいます。こうして救急患者の対応に時間がかかるという問題には、ドクターヘリなどが必要となります。

また免許を返還した高齢者が通院するためには公共交通機関が必要となりますが、地方は車社会であることが多く、バスや電車などの交通網が発達していないことも多いです。

こういった交通手段を持たない患者に対しても「出向く医療」が必要であると感じました。しかし訪問診療などで実際に1件訪問してみると、想像以上に時間も仕事量も必要とすることがわかり、こちらの資源拡大も必要不可欠であると思います。

またこの問題に対するもうひとつの視点として、予防医学の大切さを改めて感じました。つまり健康であり続けることで受診の必要性そのものを減らすことができるということです。高知県は飲酒費用が全国第1位というほど“お酒好き”の県ですが、生活習慣病やがん検診についての啓発活動を積極的に行っていき、住民それぞれが自身の健康意識を高めることが重要です。

これまでは病院内で急性期医療に従事してきましたが、今回の研修を通し、患者を診るということは病院に来る前のこと、来た後のことも考えた上で診療にあたることであると再認識することができました。このような貴重な機会を与えてくださった高知医療再生機構の方々、田野病院のスタッフ及び地域住民の方々に心より感謝申し上げます。